平成26年3月期
第2四半期決算説明会

平成25年10月30日

持田製薬株式会社

本資料ご利用上のご注意

■ 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通し情報は現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものであり、既知・未知のリスクや不確実な要素が含まれています。従って、実際の業績は様々な要因によってこれらの見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

■ それらのリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

■ また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の需要が得られない場合などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

■ 今後、新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新・修正が望ましい場合であっても、当社はそれを行なう意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。

■ 本資料中の医薬品（開発中も含む）の情報は、宣伝・広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

本資料に関するお問合せ先
持田製薬株式会社　経営企画部　広報室
TEL　03－3225－6303
http://www.mochida.co.jp

平成26年3月期 第2四半期累計期間

総 括

平成26年3月期 第2四半期累計期間の総括

- 当期のグループ連結業績は増収・減益
- 売上高（前年同期比）
  - 「エパデール」「レクサプロ」「ディナゲスト」は増加
  - 「ファスティック」は減少
- 開発パイプラインは概ね計画通りに進捗
- ヘルスケア事業も増収

売上・利益の推移（第2四半期累計期間・連結）

（単位：百万円未満切捨）　◆ご参考（既公表数値）

	25年3月期 第2四半期実績	26年3月期 第2四半期実績 （対前年同期比）	対前年同期 増減額	26年3月期第2四半期業績予想	
				25年3月期 決算発表時 5月13日	修正予想 10月25日
売上高	43, 631 （2. 6%）	45, 323 （3. 9%）	1, 692	44, 500 （2.0%）	45, 300 （3. 8%）
営業利益	8, 004 （8. 6%）	7, 937 （▲0. 8%）	▲67	6, 200 （▲22.5%）	7, 900 （▲1. 3%）
経常利益	8, 170 （8. 5%）	8, 039 （▲1. 6%）	▲130	6, 300 （▲22.9%）	8, 000 （▲2. 1%）
四半期 純利益	5, 152 （9. 5%）	4, 404 （▲14. 5%）	▲748	3, 900 （▲24.3%）	4, 400 （▲14. 6%）
研究開発費	5, 221	5, 514	292		

売上の推移（第2四半期累計期間・事業別）

（単位：百万円未満切捨）

	25年3月期 第2四半期実績 （対前年同期比）	26年3月期 第2四半期実績 （対前年同期比）	対前年同期増減額
売 上 高	43，631 （2．6%）	45，323 （3．9%）	1，692
医薬品関連事業	41，743 （2．6%）	43，330 （3．8%）	1，587
ヘルスケア事業	1，887 （2．3%）	1，993 （5．6%）	106

主要医薬品の売上推移（第2四半期累計期間）

（金額：億円、1億円未満切捨）

製品名		25年3月期 第2四半期 売上高	26年3月期第2四半期		
			売上高	対前年同期増減	
				額	%
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤	エパデール	185	193	+7	+4
持続性Ca拮抗降圧剤	アテレック	61	60	▲1	▲2
抗うつ剤	レクサプロ	21	30	+9	+44
子宮内膜症治療剤	ディナゲスト	35	39	+4	+14
抗ウイルス剤	アラセナ-A	11	11	▲0	▲4
速効型食後血糖降下剤	ファスティック	10	7	▲3	▲30
膵炎・ショック治療剤	ミラクリッド	9	8	▲0	▲7
血液凝固阻止剤	ノボ・ヘパリン	9	9	+0	+2
自律神経調整剤	グランダキシン	6	6	▲0	▲8
尖圭コンジローマ・日光角化症治療薬	ベセルナ	4	4	+0	+1
真菌症治療剤	フロリード	6	7	+0	+9
子宮内膜症・子宮筋腫治療剤	スプレキュア	5	5	▲0	▲10
後発品		21	24	+2	+13

連結貸借対照表

（単位百万円：未満切捨）

	前期末（25年3月31日）	当期末（25年9月30日）	増減額
資産合計	120, 828	120, 720	▲108
流動資産	86, 692	86, 249	▲443
固定資産	34, 136	34, 471	334
負債純資産合計	120, 828	120, 720	▲108
流動負債	25, 354	24, 166	▲1, 187
固定負債	6, 932	6, 879	▲53
純資産	88, 542	89, 674	1, 132

主な変動要因

項　目	増減概数
現金・預金	▲ 3億円
受取手形・売掛金	▲ 14億円
商品・製品	＋ 4億円
投資有価証券	▲ 7億円
その他	＋ 7億円
支払手形・買掛金	▲ 6億円
利益剰余金	＋ 29億円
自己株式	▲ 22億円

医薬品開発状況

開発番号	一般名など	開発段階	適応症	剤型	備考
AJH801	ｼﾙﾆｼﾞﾋﾟﾝ･ﾊﾞﾙｻﾙﾀﾝ配合剤	承認申請中	高血圧症	経口剤	味の素製薬(株)と共同開発
MD-0701	ﾄﾚﾌﾟﾛｽﾁﾆﾙ	承認申請中	肺動脈性肺高血圧症	注射剤	米国ﾕﾅｲﾃｯﾄﾞ･ｾﾗﾋﾟｭｰﾃｨｸｽ社から導入
MD-0901	ﾒｻﾗｼﾞﾝ	臨床第Ⅲ相	潰瘍性大腸炎	経口剤	英国ｼｬｲｱ･ﾌｧｰﾏｼｭｰﾃｨｶﾙｽﾞ･ｸﾞﾙｰﾌﾟ社から導入
MLD-55	ﾚｸｻﾌﾟﾛ、ｴｽｼﾀﾛﾌﾟﾗﾑ	臨床第Ⅲ相	社交不安障害	経口剤	＜効能追加＞ﾃﾞﾝﾏｰｸ　ﾙﾝﾄﾞﾍﾞｯｸ社から導入
MND-21	ｴﾊﾟﾃﾞｰﾙ、ｲｺｻﾍﾟﾝﾄ酸ｴﾁﾙ	臨床第Ⅱ相終了	非アルコール性脂肪肝炎	経口剤	＜効能追加＞
MJR-35	ﾃﾞｨﾅｹﾞｽﾄ、ｼﾞｴﾉｹﾞｽﾄ	臨床後期第Ⅱ相	子宮腺筋症	経口剤	＜効能追加＞独国ｲｴﾅﾌｧｰﾑ(ﾊﾞｲｴﾙ･ﾌｧｰﾏAG)から導入
MTD-39	ﾍﾞｾﾙﾅ、ｲﾐｷﾓﾄﾞ	臨床前期第Ⅱ相	尋常性疣贅	外用剤	＜効能追加＞豪国ｱｲﾉﾊﾞ･ﾌｧｰﾏｼｭｰﾃｨｶﾙｽﾞ社から導入

平成26年3月期
通期の見通し

平成26年3月期の展望と課題

- 医薬品関連事業は増収・増益を目指す
  - 「レクサプロ」の早期売上高拡大
  - 「エパデール」「アテレック」の循環器領域での地位向上
  - 「ディナゲスト」 の売上高拡大
  - ジェネリック医薬品の売上高伸長
  - 「トラムセット」 の共同販売開始（10月）
- 開発パイプラインの推進、製品ラインの拡充
- ヘルスケア事業は販売拡大と各ブランドの確立

主要医薬品の売上予想

（単位：億円）

製品名		25年3月期 売上高	26年3月期通期予想		
			売上高	対前年同期増減	
				額	%
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤	エパデール	372	362	▲10	▲3
持続性Ca拮抗降圧剤	アテレック	121	120	▲1	▲1
抗うつ剤	レクサプロ	61	101	+39	+63
子宮内膜症治療剤	ディナゲスト	71	79	+7	+10
抗ウイルス剤	アラセナ-A	22	22	▲0	▲2
膵炎・ショック治療剤	ミラクリッド	18	17	▲1	▲5
血液凝固阻止剤	ノボ・ヘパリン	18	17	▲1	▲3
速効型食後血糖降下剤	ファスティック	19	16	▲3	▲18
自律神経調整剤	グランダキシン	13	12	▲1	▲3
尖圭コンジローマ・日光角化症治療薬	ベセルナ	8	12	+4	+46
真菌症治療剤	フロリード	11	11	+0	+0
子宮内膜症・子宮筋腫治療剤	スプレキュア	10	10	▲0	▲8
後発品		44	63	+19	+42

売上予想(通期・事業別)

（単位：百万円未満切捨）

	25年3月期 通期実績 （対前期）	26年3月期 通期予想 （対前期）
売 上 高	89, 210 （3. 5%）	94, 000 （5. 4%）
医薬品関連事業	85, 177 （3. 5%）	89, 710 （5. 3%）
ヘルスケア事業	4, 032 （3. 5%）	4, 290 （6. 3%）

売上・利益予想（通期・連結）

（単位：百万円未満切捨）

	25年3月期 通期実績 （対前期）	26年3月期 通期予想 （対前期）
売上高	89, 210 （3. 5%）	94, 000 （5. 4%）
営業利益	14, 017 （▲6. 1%）	14, 500 （3. 4%）
経常利益	14, 188 （▲7. 2%）	14, 600 （2. 9%）
当期純利益	9, 152 （0. 8%）	9, 300 （1. 6%）

研究開発費	12, 519	12, 900

トピックス

エパデールの価値拡大①

■ エパデールは高純度EPA製剤

■ 豊富なEBM情報から疾患治療ガイドライン掲載へ

心血管イベント抑制の国内エビデンス（JELIS　等）

↓

『心筋梗塞二次予防に関するガイドライン2011』
『動脈硬化性疾患予防ガイドライン2012』 等

エパデールの価値拡大②

■ EPA/AA比の重要性

- 40歳以上の地域住民を5年間観察した久山町研究において、EPA/AA比が低いほど死亡率が上昇していることが判明
（二宮ら, 米国心臓病協会学術会議, 2011）
- 久山町研究において、EPA/AA比が動脈硬化など慢性炎症のある人の心血管イベントに相関していることが判明
（二宮ら, Atherosclerosis, 2013）

高純度EPA製剤「エパデール」の豊富なEBM情報に加えて、『EPA/AA比』の重要性への認知が高まり、「エパデール」の価値はますます向上しています

フィルグラスチムBS注シリンジ「モチダ」

- 2013年5月発売
- G-CSF製剤として、日本初のバイオ後続品
- 効能・効果：

  がん化学療法による好中球減少症、

  造血幹細胞移植時の好中球数の増加促進　等